

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|----------|-----------------|
| C-142 | 24-302 | 慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Potential Link Between Exercise and N-Methyl-D-Aspartate Glutamate Receptors in Alcohol Use Disorder: Implications for Therapeutic Strategies 運動と N-メチル-D-アスパラギン酸グルタミン酸受容体との関連性：アルコール使用障害における治療戦略への示唆 | | |
| 執筆者 | | |
| Susan Sedhom ¹ , Nikki Hammond ¹ , Kyriaki Z Thanos ¹ , Kenneth Blum ^{2,3} , Igor Elman ⁴ , Abdalla Bowirrat ³ , Catherine Anne Dennen ⁵ , Panayotis K Thanos ¹ | | |
| 掲載誌 | | |
| Psychol Res Behav Manag. 2024 Jun 14:17:2363-2376. doi: 10.2147 | | |
| キーワード | PMID | |
| アルコール使用障害 (AUD)、NMDA 受容体、脳、運動、報酬 | 38895648 | |
| 要 旨 | | |
| <p>アルコール使用障害 (AUD) は、米国における全死亡の約 13% を占める重大な危険因子である。AUD は家族を崩壊させるだけでなく、生産性の低下、欠勤、医療費の増加による経済的損失も引き起こす。長年にわたり AUD の影響を受ける個人の数が持続していることを示す統計は、新たな治療戦略を推進するために、その根底にある病態生理学のさらなる理解が必要であることを強調している。これまでの研究では、大脳辺縁系の N-メチル-D-アスパラギン酸グルタミン酸受容体 (NMDAR) が AUD の感情および行動への影響に関与していることが示唆されている。有酸素運動が NMDAR の活性とアルコール感受性を調節し得ることを踏まえ、本総説ではアルコール摂取および急性・持続性離脱によって誘発される NMDAR レベルに関する臨床・基礎科学研究をまとめ、AUD の補助療法としての有酸素運動の潜在的役割を明らかにする。我々の知見に基づけば、報酬関連受容体と AUD の調節における運動の有用性は、NMDA シグナル伝達への影響を介して媒介される可能性がある。これらのデータは、有酸素運動が AUD に対する有望な補助療法としての可能性をさらに検討することを支持するものである。</p> | | |